

矢田東地域(現地視察)について

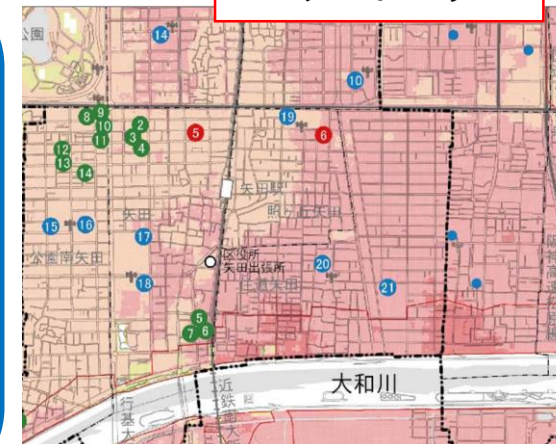
資料3

ハザードマップ

日時:平成30年8月28日(火)15:00~17:00

場所:矢田東やすらぎセンター

参加者:【区政会議委員】建林部会長・藤本英治委員・大平委員・樋口委員・花川委員
【矢田東地域】河合連合町会長・鎌田会長・酒井災害救助部長
【区役所】齋藤課長・杉本課長・河村課長・山本代理・池田係長・山本係員



概要

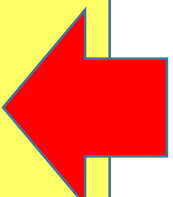
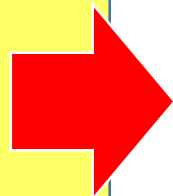
区政会議(安心つながり部会)の議論の中で、地域や介護・福祉施設等とつながっていくセーフティモデルの構築が提案された。水害時等の被害が懸念されること及び藤本委員の所属しているNPOが災害時の連携について情報交換を始めていること等から矢田東地域をモデルとして他の地域へ広がりを検討していく。

今回のまちあるきは、モデルとして検討を進める前提として矢田東地区がどのような地域で、どんな特徴があるのか(空家が多い、文化住宅等が多い、高層ビルが少ないこと)等を実際に見て歩き、必要な事項を議論に繋げていくことを目的として実施。

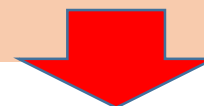
現地視察



矢田東やすらぎセンター
(集合場所)



大和川到着、地域の全景と地形の把握
(高層の建築物等の把握)



矢田東小学校(避難所)
備蓄倉庫の物資・位置の確認・規模の確認

ヒアリング(防災計画・取組の現状・課題)

矢田東連合

- 他の地域に比して高齢化率が非常に高く、築年数の古い建物や空き家が多い。
- 大和川が氾濫した場合は、被害の発生が想定される。
- 近年、防災訓練の参加人数が非常に多い。一昨年は地震、昨年は水害の想定で訓練を実施。

酒井災害救助部長からのお話

○「矢田東地域防災計画」に基づいての現状の説明。

→「地域災害対策本部事務局」を設置している。(副部長等も任命)

→地域防災リーダーの体制(青少年指導員・青少年福祉委員の人もリーダーに加入して55名に)

○昨年大和川の増水で「避難準備・高齢者等避難開始」に続き、「避難勧告」が発令された際には、当時作成していた地域防災計画が効果的に機能しなかった。

→避難所の開設の段取りがうまくいかなかった。(500名程度の避難者)

……町会で部屋を分けるなど受け入れの仕組みの改善を図った。

……現在も地域防災計画の改訂を進めている。(8月26日の防災リーダー会議の際も議論)

○『中学生防災リーダー』の任命。夏休み期間に矢田中学校の中学生10名程度を中学生防災リーダーとして任命し、消防署での訓練や豪雨被害の被災地のヒアリングを行った。

→今後は普段からのつながりを含めて、中学生との連携も深めていきたい。熊本の被災地においても中学生が活躍しており、中学生防災リーダーが中心となることで他の中学生たちに波及効果が見込まれる。



ヒアリングと意見交換で挙げた課題等

○「福祉施設との連携」について。避難者を避難所へ連れてきてくれたが、発令が解除された際の施設等への帰宅において混乱が生じた部分もあった。

→普段から顔も名前も知らない間柄では連携が難しい。町会等の近所の方々は連携出来ていた部分もあった。

…普段からのつながりを作っていく必要がある。

→各施設ごとに避難計画を提出することとなっているが、現状その避難行動の中に地域との連携が記載されていることはない。

○矢田東地域内において「水害時避難ビル」が矢田東小学校と矢田中学校だけでは、避難可能人数が不十分なので域内の事業所に協力を呼び掛けていく必要がある。また、災害時貢献事業所・店舗を増やすとともに、企業への地域の訓練の情報提供など、顔合わせの場を作り地域との連携を促進する必要がある。

○「中学生防災リーダーとの連携」について、夏休みの期間防災リーダーとして活動してもらったが、今後の連携の方法の検討が必要。

○民生委員や社会福祉協議会の方は、防災リーダーに入っているのか？

→現状は入っていない、今後は青少年指導員・青少年福祉委員の方が加入してくれたように代表の方だけでも加入してもらえれば、各団体との繋がりが作っていけるのでは？

…矢田東地域としては、いろんな団体、施設、企業との連携を深めていきたい。

提 案

○施設や企業など各団体の顔合わせのような場を設けることが出来ないか？避難所の運営段階から関わる人が増えることで、開設時も継続的な運営をする上でも効果的ではないか？

 防災だけではなくて、お祭りやその他のイベントも含めて楽しいことを共有して繋がればいいのではないか？